

# 西オーストラリア州概要

2024年10月

## 1 概況

### (1) 地理的状況

西オーストラリア州（西豪州）は、豪州全土（約769千km<sup>2</sup>）の約3分の1を占め、日本の約7倍（約253万km<sup>2</sup>）の面積を有する広大な領域を占める（注1）。

西豪州の人口は約293万人で、そのうち約231万人がパース首都圏に集中している。残りの州民は、約3,000キロ以上にわたって延々と続く海岸線の各地に、あるいは、「アウトバック」と呼ばれる荒涼たる内陸部に点在して居住している。そのため、西豪州の人口分布は広範囲に拡がっている（注2）。

日本から西豪州への直行便は、2019年9月から全日空が成田・パース間に就航、コロナ禍を受けて運休したものの、2023年10月より運行再開。パースは、飛行機でインドネシア（バリ島）へ約3時間半、シドニーへ約4時間半、ヨハネスブルグへ約12時間の飛行時間の距離にあるため、「世界で最も孤立した都市」と言われている。なお、2018年3月にはロンドンとの直行便就航が就航したが、飛行時間は約17時間。

日本との時差は年間を通じ、西豪州では-1時間。なお、豪州東部のキャンベラ、シドニー、メルボルン等の諸都市は夏時間を採用しており、西豪州との時差は冬時間で-2時間、夏時間で-3時間となる（注3）。

西豪州は第二位の貿易相手国であり、長年の関係を有する日本、第一の貿易相手国であり強い経済関係を有する中国のほか、インドや近隣のインドネシア、シンガポール、マレーシア等のアジア諸国との関係強化を進めており、また中東、アフリカ諸国との経済関係の強化にも踏み出している。「白豪主義」の時代と異なり、最近では東南アジア等、各国からの移民や留学生等も多く、各コミュニティを維持しつつ、同時に地域社会に溶け込んでいる。そのため、多様なアジア系文化と従来の欧州系文化が混ざり合った「多文化主義」が根づいている。

（注1）豪州連邦統計局データ

（注2）2023年豪州連邦統計局。人口密度1人/1平方キロ（日本は340人/平方キロ）。パース大都市圏以外で人口が3万人を超えるのは、ジェラルトン、アルバニー、バッセルトン、バンバリー、カルグーリ、ハーヴェイ（いずれも3~10万人程度）。

（注3）西豪州は、2006年に試験的に夏時間を導入したが、2009年の州民投票の結果、継続を希望しない者が過半数を占め、それ以降、夏時間を廃止した。

### (2) 州都パースの気候風土

州都パースは豪州西海岸の南緯31.59° 東経115.51°に位置する。北半球に置き換えると、ほぼ鹿児島市の位置となる（これを理由の一つとして、パース市と鹿児島市は姉妹都市関係を樹立）。気候は地中海性気候であり、日本のような明確な四季の変化はなく、大別すると雨期（冬）と乾期（夏）に分けられる。年間を通じて風が強く、冬（6月~8月）にはインド洋からの強い西風を伴った雨が降る日が多いが、一日中降り続くことはあまりない。一方、夏（12月~2月）にはほとんど雨は降らない。

サイクロンによる被害は州北部以外では殆どないが、干ばつや乾期の山火事は時折発生しており、雹（ひょう）により被害も稀にある。

### (3) 日本との関係

西豪州と日本は、長年の資源エネルギー分野を中心とした経済関係や文化交流、姉妹都市交流、要人往来を含めた様々なレベルでの人的な交流にも支えられ、全般的に極めて良好な関係を維持している。特に、鉄鉱石や天然ガス、工業製品や農産物等の貿易を通じて、互惠・補完関係にある重要なパートナーとなっている。また、日本語学習者や日本文化に関心が高い親日家が多く、最近ではスキー旅行などで日本を繰り返し訪れる西豪州民も多い。

### (4) 日本との歴史的つながり

#### ●ブルームへの日本人の渡来

西豪州と日本との関係は、ボタン加工用の真珠貝の貝殻や真珠そのものの採取のため、ブルーム（パース北西 1600 キロ）に日本人潜水夫が渡来した明治中期にまで遡る。ブルームの日本人はカソリック・シスター等と協力して、学校や病院を建て、地域社会に貢献した。このため日本政府は、1910 年にブルーム在住のアーチャー・マイル氏を名誉領事に任命し、居留民の保護にあたった。その後 1923 年、兄の後継者として任命した弟のアーサー・マイル名誉領事は、太平洋戦争の勃発まで名誉領事を務めた。1958 年に同氏の長男であるサム・マイルが名誉領事に任命され、1971 年まで務めた。

#### ●巡洋戦艦「伊吹」による ANZAC 部隊の護衛

第一次世界大戦中の 1914 年 11 月、豪州・ニュージーランド連合軍（ANZAC）が西豪州アルバニーを出港してトルコに向かった際、日英同盟を背景に、巡洋戦艦「伊吹」が豪海軍艦艇とともに同部隊をエジプトまで護衛した。

2014 年、豪連邦主催のアルバニー ANZAC 出港 100 周年記念式典が行われ、日本から中根一幸外務大臣政務官（当時）が出席し、護衛艦「きりさめ」も参加した。

#### ●在パース総領事館の開館

太平洋戦争開戦の直前に、日豪両国は外交関係を樹立し、1941 年（昭和 16 年）2 月に、我が国はキャンベラに公使館を開設し、河相達夫公使が同年 3 月に着任した。同年 7 月、野党自由党カーティン党首（西豪州出身）の招待を受け、パースに来訪した河相公使は、西豪州産鉄鉱石の対日輸出につき協議した。なお、当時の日本は、前年の米国のくず鉄対日輸出禁止の経済制裁下にあった。

戦後の 1960 年（昭和 35 年）に西豪州産鉄鉱石の対日輸出が解禁された後、パースに駐在する日本企業駐在員の数は増加し、1967 年（昭和 42 年）2 月 10 日に在パース総領事館が開館した。

## 2 政治

### (1) 政体

豪州は、西豪州を含む 6 州と 2 特別地域（首都特別地域、北部準州）からなる連邦国家。英連邦に属し、その政体は英国国王を元首とする立憲君主制で、同元首によって任命された連邦総督及び州総督が王権を代行している。総督は憲法上広範かつ強力な権限を持つが、「君臨すれども統治せず」の英国式立憲主義の伝統に則って、実質的には議会制民主主義に基づく議院内閣制が採られている。

現在の西豪州総督は、クリス・ドーソン氏（His Excellency the Honourable Chris Dawson APM）。ドーソン総督は西豪州警察長官を務めた後、2022 年 7 月、第 34 代総督に就任した。

## (2) 州内政

労働党と自由党の二大政党が歴代政権を担っており、2017年3月に行われた選挙では、西豪州の厳しい経済状況、バーネット自由・国民党連立政権に対する飽きから変化を求めた多くの有権者が労働党を支持し、労働党が地滑りの勝利を収め、マッガーワン政権が発足した。労働党政権は、2021年3月の州議会選挙で更に議席を積み増し、圧倒的勝利を収めた。

2023年5月、マッガーワン首相の任期途中での辞任表明を受けた党内選出の結果、6月、クック副首相（当時）が後継の州首相に就任。クック新首相は政治の安定性と継続性を重視し、全ての州民が繁栄を享受する強力な西豪州経済の構築を目指すとしている。

## (3) 州議会

西豪州議会は、上院（Legislative Council）と下院（Legislative Assembly）からなる二院制。

上院は6つの選挙区（計36議席）から比例代表制によって選出され、議員の任期は4年。現在の議席数は、労働党21、自由党7、国民党2、大麻合法化党1、グリーンズ1、無所属4。上院議長は労働党のアラーナ・クロヘシー氏である。

下院は59の小選挙区から選出され、任期は4年。現在の議席数は、労働党53、国民党3、自由党3。下院議長は労働党のミシェル・ロバーツ氏である。

法案の成立には上下両院の承認が必要である。予算関連法案については、上院は否決権や修正要求権を有しているが、発議権や修正権はない。

## (4) 西豪州選出の連邦議員

連邦議会上院（Senate）は州単位の比例代表制を採っており、上院の任期は6年で、3年毎に半数が改選される。上院の定員76名中、西豪州の上院議員は、各比例区から計12名が選出される。現在の議席配分は、労働党4、自由党5、グリーンズ2、無所属1。

連邦議会の下院（House of Representatives）は小選挙区制を採っており、合計151選挙区あり、このうち西豪州には15選挙区がある。下院議員の任期は3年で、現在の議席配分は労働党9、自由党5、無所属1。

現在のアルバニー連邦政権の閣僚のうち、西豪州選出議員は、マデレン・キング資源・北部豪州担当大臣、マット・キオ退役軍人・国防要員担当大臣（閣外）、アン・アリー児童教育・若者担当大臣（閣外）が任命されている。

## (5) 我が国との政治レベルでの交流

2006年4月、西豪州と関西との関係をより発展させるため、竹本直一衆議院議員（当時）を会長とする「西オーストラリア州・関西友好議員連盟」が設立された。

### 【参考】我が国要人の来訪（1973年以降）

1973年5月	明仁皇太子同妃両殿下（上皇上皇后両陛下）
1974年11月	田中角栄内閣総理大臣
1980年10-11月	田中六助通商産業大臣
1982年10月	桂宮宜仁親王殿下

1985年6月	山下徳雄運輸大臣
10月	酒井時忠兵庫県知事
1987年10月	貝原俊民兵庫県知事
1991年10月	貝原俊民兵庫県知事
1995年5月	海部俊樹前首相（私的訪問）
8月	野呂田芳成農林水産大臣
1997年9月	経団連使節団
1998年1月	久間章生防衛庁長官
2000年8月	貝原俊民兵庫県知事
2001年10月	井戸敏三兵庫県知事
2006年2月	竹本直一財務副大臣
2006年11月	井戸敏三兵庫県知事
2009年5月	中曽根弘文外務大臣
2010年2月	岡田和也外務大臣
2010年12月	伴野豊外務副大臣
2011年7月	福田康夫元総理（ボアオ・フォーラム関連会合）
2014年4月	小野寺五典防衛大臣
2014年7月	安倍晋三総理大臣
2014年10月	中根一幸外務大臣政務官
2016年8月	竹本直一衆議院議員（関西・西豪州議連会長）
2017年4月	井戸敏三兵庫県知事
2017年9月	堀井巖外務大臣政務官
2019年9月	逢沢一郎衆議院議員他（日豪議連）
2019年11月	秋葉賢也総理大臣補佐官
2022年10月	岸田文雄総理大臣
2024年2月	高村正大外務大臣政務官
2024年7月	高見康裕防衛大臣補佐官

西豪州政府要人の訪日（1991年以降）

1991年6-7月	カルメン・ローレンス首相
1993年3月	リチャード・コート首相
1993年9月	コリン・バーネット資源開発大臣
1995年3月	コリン・バーネット資源開発大臣
1996年7月	リチャード・コート首相
1998年4月	リチャード・コート首相
2001年9月	ジョン・サンダーソン総督
2001年10-11月	エリック・リパー副首相
2002年7月	ジェフリー・ギャロップ首相
2004年7月	ジョン・カウデル上院議長
2005年7月	ジェフリー・ギャロップ首相
2006年7月	アラン・カーペンター首相

2007年2月	ニック・グリフィス上院議長
2007年10月	エリック・リパー副首相
2008年5月	ローガン資源・エネルギー大臣
2008年6月	リーベリング下院議長
2009年2月	コリン・バーネット首相
2010年4月	ウッドアムス下院議長
2011年3月	コリン・バーネット首相
2011年9月	クリスチャン・ポーター財務・法務大臣
2011年9月	テリー・レッドマン農業大臣
2011年10月	ウッドアムス下院議長
2012年4月	キム・ヘイズ副首相兼観光大臣
2013年6月	コリン・バーネット首相
2013年7月	マーク・マッガーワン野党労働党党首
2015年3月	ケン・バーストン州農業等担当大臣
2016年10月	バリー・ハウス上院議長
2017年4月	ベン・ワイヤット財務大臣
2017年10月	ポール・パパリア観光大臣
2017年11月	マーク・マッガーワン州首相 (ポール・パパリア観光大臣同行)
2019年1月	マーク・マッガーワン州首相
2023年1月	マーク・マッガーワン州首相
2023年3月	ビル・ジョンストン鉱山・石油・エネルギー大臣
2023年10月	クック州首相及びサフィオティ副首相

### 3 経済

#### (1) 西豪州経済の現状と最近の動向

西豪州の州内総生産（GSP）は4,453億ドル（2022/23年度）で豪州国内総生産（GDP）の17.4%を占めた。また、西豪州の一人当たりGSPは157,390ドルとなり、豪州の一人当たり（GDP）を62%上回った。また、GSPの成長率は3.5%のプラスとなり2023/24年度は1.75%の成長と見込んでいる。2024年7月の失業率は3.7%と同時期の豪州全体の失業率4.1%比べ低くなっている。

西豪州経済は、鉱業産品、農水産品等の天然資源の開発と輸出に支えられており、2022/23年度は、鉱業、建設業、工業及び農林水産業の製造業全体でGSPの58%を占めた。2023年、輸出産品の内訳は、輸出額ベースで鉄鉱石（51%）、石油（LNG含む）（18%）、金（9%）と資源が中心となっている。

西豪州からの輸出は、中国（全輸出の58%）、日本（12%）、韓国（7%）の順となっている。西豪州から輸出される鉄鉱石の85%、リチウムの99%、石油（含むLNG等）の14%が中国へ輸出されている。また、石油（含むLNG等）の40%は日本へ輸出されている。なお、2023年豪州全体の輸出額の46%は西豪州からの輸出によるものである。特に東アジア向け国別輸出額において、対中国（75%）、対シンガポール（58%）、対香港（59%）など、西豪州は豪の他州を圧倒している。

一方、2023年の西豪州の輸入先国は、中国（全輸入の21%）、アメリカ（14%）、

マレーシア（8%）の順となっており、前年から4%増加し、輸入額は豪州全体の輸入額の10%を占めている。

## （2）我が国との関係

戦後しばらく、豪州は対日鉄鉱石輸出を禁止していたが、故チャールズ・コート元西豪州首相（当時は産業・開発及び北西部担当大臣、リチャード・コート元駐日豪大使の父親）の積極的な働きかけもあり、1960年12月に鉄鉱石の輸出が解禁された。当時、高度成長の黎明期であり、急速に重化学工業化を促進していた我が国にとって、西豪州は鉄鉱石資源の一大供給源となった。その後、現在に至るまで、西豪州と我が国との間で資源取引が拡大し、資源と工業製品の貿易を通じて相互に補完的関係にある重要なパートナーとなっている。

我が国は、鉄鉱石の約50%、LNGの約30%、小麦の14%を西豪州から輸入しており、西豪州にとって日本は、輸出の12%（305億ドル）（2023年）を占める第2位の輸出先国となっている。一方、西豪州は日本から機械・輸送機器等を輸入しており、輸入額においては、輸入総額の7%（34億ドル）（2023年）を占め第4位の輸入元国となっている。

西豪州に進出している日系企業は約90社。この中で、鉄鉱石やLNG等の資源ビジネスを扱う総合商社は、西豪州において生産・輸出される鉱産品の取扱業者としてだけでなく、資本参加により自らも権益を取得し商業活動や各種開発投資も積極的に行っている。日本の主なガス・電力会社も、LNG事業への資本参加及び長期売買契約の締結を行っている。

日本は、年間小麦需要の約9割（約460万トン）を世界中から輸入している。その中の豪州産輸入小麦約70万トンのうち、約63万トンは西豪州産である。日本が輸入する西豪州産小麦は、主にうどん用に使用されている。その他、西豪州産大麦は焼酎、ビール製造用に使用されている他、飼料用としても小麦・大麦が日本に輸出されている。

## 4 在留邦人

### （1）在留邦人

当館に届出がなされている在留邦人数は、2024年10月現在で8,443人であり、このうち、6,072人が永住者である。在留邦人の9割強がパース及びその近郊に在住している。2020年以降、新型コロナウイルスの影響により駐在員・留学生・ワーキングホリデー等が帰国したため在留邦人数は減少傾向にあったが、2022年4月以降の国境オープンにより増加傾向にある。

（参考）西豪州の在留邦人の推移（毎年10月1日現在）

1969年	198人	2011年	7,248人	2021年	8,071人
1980年	365人	2012年	7,997人	2022年	8,266人
1990年	1,033人	2013年	8,539人	2023年	8,443人
2004年	3,825人	2014年	7,744人	2024年	8,443人
2005年	4,293人	2015年	7,832人		
2006年	4,845人	2016年	8,511人		
2007年	5,277人	2017年	7,678人		
2008年	5,965人	2018年	7,268人		
2009年	6,619人	2019年	8,474人		
2010年	6,121人	2020年	8,278人		

## (2) 当地の治安状況

西豪州内では治安状況に概ね安定しているが、西豪州警察の犯罪統計によれば、犯罪発生件数は多く、日本と比べて犯罪発生率は高い。近年犯罪発生件総数は減少しているものの、住居侵入や車両盗難の発生件数は依然として多く、薬物関連犯罪が増加傾向にある。

邦人が殺人事件等の凶悪犯罪に巻き込まれる事例はないが、パース市内のキングスパークで旅行者等が駐車していた車の中から置き引きに遭う事例が多発しており、パース市近郊の住居への侵入窃盗も報告されている。

## (3) 在留邦人組織

### ●西豪州日本人会

「西豪州日本人会」、「パース日本商工会議所」及び「日本人学校運営理事会」の三組織が、組織の合理化、在留邦人社会の連携強化、当地での在留邦人団体組織の存在感向上を目的とし、2010年3月に「西豪州日本人会」として同一組織に統合された。現在、同会は、「個人部会」、「商工部会」及び「学校部会」の3部から構成される。

#### ・個人部会

主に日系企業駐在員及び永住者で構成され、日本人墓地の清掃、ボーリング大会、忘年会等の企画運営を行う。

#### ・商工部会

西豪州に進出している日系企業の相互の親睦、共通の問題処理、日豪経済の発展と文化交流への寄与を目的とする。セミナー等の企画・実施を行う。

#### ・学校部会

パース日本人学校及びパース補習授業校の運営を行う。

### ●西豪州日本クラブ

永住者を中心とした親睦クラブ。毎月1回のコアラ会（食事会）とクリスマス会やバザー等を実施。

### ●サポートネット虹の会

1999年、当地邦人永住者が中心となり、パース居住の在留邦人に対する福祉活動を目的に設立（2000年に社会福祉法人化）。

主な活動内容は、①邦人独居老人の介護援助、②邦人配偶者に対する家庭内暴力等の相談受付、警察やセーフティハウス等への通報・保護要請等、③4歳以下の児童を持つ邦人母親の子育て支援、生活情報の交換の場である約30のプレイグループへの支援。同会は、上記功績が認められ、2018年外務大臣表彰を受賞した。

## 5 広報・文化活動

### (1) 概況

西豪州は、地理的特性からアジア諸国との繋がりが強く、日本との密接な経済関係を背景に日本に対する関心は高い。当館は、良好な日豪関係の維持強化のため、国際交流基金等と連携しながら、日本映画祭、日本伝統文化事業等様々な日本文化紹介事業を実施し、対日理解の促進に努めているほか、初等教育機関訪問等による広報を通じ、日本に関する情報を発信し、バランスのとれた対日観の醸成に努めている。また、国際交流基金との連携を通じた日本語教育支援、JETプログラムや国費外国人留学生制度等の人物交流支援、日本への観光客誘致に向けた広報を実施している。広大な西豪州の人口のほとんどはパース首都圏に集中し、遠隔地在住者への情報量は極めて限られることから、ホームページやSNS（フェイスブック、X（旧ツイッター）

一)、及びインスタグラム)を通じた情報発信を行っている。

当地での最大の日本文化紹介イベントである「パース日本祭り」は、パース日本祭り実行委員会が企画・運営しており、同委員会は当館、日本人会、日本クラブ、虹の会、西豪州豪日協会、J E T A A等の当地日系団体関係者で構成されている。(第10回(2024年3月)の参加者は約20,000人)。

## (2) 姉妹都市交流

西豪州では、西豪州と兵庫県の姉妹交流をはじめ、以下の姉妹都市関係がある。当館は、同交流事業を様々な形で支援。2021年に西豪州・兵庫姉妹都市提携40周年2024年にパース市・鹿児島市が姉妹都市提携50周年、ベルモント市・東京都足立区が同40周年を迎えた。

### ●姉妹都市提携(11件)(2024年9月現在)

提携年	都市名	主な交流内容
1974年4月	パース市・鹿児島市	高校生交流事業、市民交流団の相互派遣
1979年4月	フリーマントル市・横須賀市	高校生交流事業
1981年5月	ブルーム・和歌山県太地町	市・町幹部による相互訪問、小学生交流
1981年6月	西豪州・兵庫県	教員交流等
1984年10月	ベルモント市・東京都足立区	中学生の相互訪問交流、市民交流団の相互派遣、姉妹都市専門員受入
1992年11月	バンバリー市・東京都世田谷区	小学生の相互訪問交流
1996年11月	バッセルトン・埼玉県杉戸町	中学生相互交流、職員派遣
1997年4月	ロッキンハム市・兵庫県赤穂市	小中高生の派遣・受入、市民交流
2001年2月	アルバニー市・群馬県富岡市	中高生・教職員交流
2010年11月	アルバニー市・宮崎県日南市	中高生相互交流
2022年6月	ハービー町・栃木県真岡市	中学生相互交流

※ 姉妹港(2件): フリーマントル港/名古屋港、  
アルバニー港/油津港(宮崎県日南市)

## (3) 日本語教育状況

国際交流基金調査(2021年度)によれば、豪州全体における日本語学習者415,348人のうち、西豪州では39,062人。このうち、初等教育機関での学習者は26,669人(豪州全体258,811人)、中等教育機関では11,317人(豪州全体140,323人)、大学等の高等教育機関では865人(豪州全体11,301人)、学校教育以外では211人(豪州全体4,913人)。

当地には日本語教師を会員とする西豪州日本語教師協会があり、日本語教授法等のセミナーや日本語弁論大会の開催等を行っている。会員数は約110名(2023年8月時点)。同協会はこれまでの功績が認められ、2018年外務大臣表彰を受賞した。

#### (4) JETプログラム

JETプログラム（Japan Exchange and Teaching Programme：「語学指導等を行う外国青年招致事業」）は、地方公共団体が、総務省、外務省、文部科学省及び財団法人自治体国際化協会（CLAIR）の協力の下に実施している（昭和62年度にスタート）。

職種は、中学校・高等学校等で語学指導に従事する語学指導助手（ALT：Assistant Language Teacher）と、国内地方公共団体で国際交流活動に従事する国際交流員（CIR：Coordinator for International Relations）の2種類があり、原則として任期1年の予定で全国各地の配属先で英語の指導等に当たっている。同制度発足以来2024年度までに西豪州から合計573名が参加している。

（参考）過去9年間の派遣人数の推移

年度	CIR	ALT	計
2016	1	19	20
2017	1	14	15
2018	2	17	19
2019	2	19	21
2020	0	9	9
2021	2	11	13
2022	2	7	9
2023	0	18	18
2024	0	15	15

#### 西豪州JET同窓会（JETA AWA）

1998年に発足し、会員総数は641名（2024年9月）である。当館と緊密に連絡をとりながら、JETプログラムの広報活動のほか、各種交流文化イベントを積極的に実施している。同団体はその活動功績が認められ、2016年にJETプログラム30周年外務大臣表彰（団体）を受賞した。

#### (5) 西豪州豪日協会

（個人会員約240名）（2024年9月時点）

1974年、ゴードン・フリース元駐日大使の呼掛けで発足した文化交流団体。2024年に発足から50周年を迎えた。日本関連イベントの開催、ニュースレターの発行等を通じ、日・西豪州の友好親善の増進のために活動している。また、2023年に閉鎖し、兵庫県から西豪州政府に引き渡された兵庫文化交流センターの施設を、2024年2月に当該協会が運営する西豪州日本文化教育センター（Japan Education and Cultural Centre of Western Australia（JECWA））として再発足させた。

平成元年春にレスリー・ウィリアム・スレード元会長が勲四等旭日章を、平成27年春にパトリック・D・ホワイト元会長が旭日小綬章を、令和2年春にジェラルド・ボイラン元会長が旭日小綬章を叙勲された。また平成16年に同協会、平成29年にジェラルド・ボイラン元会長及びテリー・オトゥール前ジェラルトン・グリナーフ豪日協会会長が外務大臣表彰を受賞した。

（了）